

富山大学
人間発達科学研究実践総合センター紀要

教育実践研究

第16号

令和4年1月

目次

論文

SDGs(持続可能な開発目標)の単元開発

—中学校社会科公民的分野「富山市コンパクトシティ政策」の場合—

.....坂田 元丈 1

中学生における無意図的な陰口の検出に影響する要因

—対人スキルと情動知覚の視点から—

.....金井 春音・石津憲一郎 13

教師の言語賞賛が児童の感情反応に与える影響

—友人が賞賛されている場面から—

.....山田 百花・石津憲一郎 21

小学校外国語活動における児童の不安軽減に関する実践研究

.....千葉奈津江・岡崎 浩幸 33

中学校の学級経営と生徒指導に関する現状と課題

.....大道 隆也・長谷川春生 41

高校体育におけるヨガ教材の授業づくりに関する事例的検討

—グループでの創作発表を方法とする実践を対象として—

.....玉腰 和典・山本奈緒子 51

報告

導入教材の活用と話し合いの工夫を通じ理解を深める理科授業

—「段階的理解法」の提案—

.....月僧 秀弥・新村 宏樹・葛生 伸 69

富山大学人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センター紀要投稿要項

平成 20 年 7 月 16 日制定

平成 28 年 4 月 1 日改正

1 紀要編集

センター紀要編集委員会（「以下「委員会」という。」）では、人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センター（以下「センター」という。」）の紀要として、毎年度に1号の原稿を募集し、編集を行なう。

2 著者の資格

- (1) 人間発達科学部（以下「学部」という。）の専任教員
- (2) 大学院教職実践開発研究科（以下「研究科」という。）の専任教員
- (3) 学部附属学校園の専任教員
- (4) 編集委員会が認めた者、学部及び研究科の専任教員との連名で投稿する者

3 原稿の内容

- (1) 投稿原稿は、未発表のものとする。
- (2) 教育実践にかかわる理論的実践的研究に関する論文、報告、資料、その他とする。
 - ①論文とは、新たな発見また見解を示した研究成果を論述したものをいう。
 - ②報告とは、授業実践報告などをいう。
 - ③資料とは、研究レビューや紹介、総説などをいう。
 - ④その他とは、上記①から③以外のものをいい、著者が投稿の際にその名称を申告する。
- (3) 著者は、原稿の種類（論文、報告、資料、その他）を申告する。
- (4) 著者は、原稿枚数が別に定める基準を超える場合には、原則として経費を負担するものとする。

4 投稿と受領

- (1) 原稿の締め切り日は、8月31日とする。但し、その日が土曜日の場合は、翌々日、日曜日の場合は、翌日とする。
- (2) 投稿カードに所定の事項を記入のうえ、原稿2部と原稿を記録した電子メディアをセンター事務室に提出する。

上記の2の(3)による者は、その所属研究機関あるいは勤務先を記入する。

5 原稿の受付

- (1) 本委員会では、投稿された原稿について、本要項と執筆要項に照らしてその要件を満たしているならば、受け付ける。

6 修正と受理

- (1) 本委員会では、受け付けた原稿について査読する。

- (2) 本委員会では、原稿について、本委員会外にも意見を求めることができる。
- (3) 本委員会は、原稿の訂正を著者に求めることができる。
- (4) 原稿の採否は、本委員会が決定する。
- (5) 本委員会で採用を決定した年月日をもって、受理年月日とする。

7 校正

- (1) 校正は、著者の責任において所定の期間までに、初校及び再校を行なう。
- (2) 校正時における原稿の修正は認めない。
- (3) 三校以降は、委員会の責任で行なう。

8 二次利用

掲載された原稿の二次利用は、本委員会に委ねるものとする。

富山大学附属人間発達科学研究実践総合センター紀要執筆要項

平成 20 年 7 月 16 日制定

1 原稿の形式

- (1) 1 篇として成立し、分割されていないものとする。
- (2) 言語は原則として日本語、英語とし、その他紀要編集委員会で認めるものとする。
- (3) 母国語以外を用いるときは、校閲を受けることが望ましく、著者より依頼する。
- (4) 現行の表記法を用いる。
- (5) 単位、及び単位記号は、原則として M.K.S 単位系を用いる。

2 原稿の書式と体裁

- (1) 1 篇につき、図・表・写真等を含め、刷り上り 14 頁以内とする。やむを得ず制限を超える場合は著者の負担で掲載を認める。
- (2) 原稿の体裁は、書式見本（別紙）を基本とする。
- (3) 上記が困難な場合は、A4 判用紙に 32 字×25 行で印字する。図表がある場合は、そのまま印刷可能なものを添付すること。
- (4) 投稿論文数は、筆頭者 1 人につき、各号 1 篇とする。筆頭者による 2 篇以上の投稿については、編集委員会が審議して掲載の可否を決め、第 2 篇からは著者の負担で掲載を認める。

富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要
教育実践研究 編集委員会

委員長 上 山 輝
委員 石 津 憲一郎
小 澤 郁 美
小 林 真
近 藤 龍 彰
笹 田 茂 樹
千 田 恭 子
高 橋 満 彦
長谷川 春 生

富山大学人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センター紀要
教育実践研究 第16号

令和4年1月11日 発行

編集兼 富山大学人間発達科学部
発行者 附属人間発達科学研究実践総合センター
〒930-8555 富山市五福3190
TEL (076) 445-6380
印刷所 株式会社なかたに印刷
〒939-2741 富山市婦中町中名1554-23
TEL (076) 465-2341

“*KYOIKU JISSEN KENKYU*”

BULLETIN OF THE CENTER OF EDUCATIONAL RESEARCH AND PRACTICE UNIVERSITY OF TOYAMA

No. 16

January, 2022

CONTENTS

Original Article

Development of Unit SDGs (Sustainable Development Goals)

— Case Study “Toyama’s Compact City Policy” in Junior High School Social Studies in Civic Field —

..... Genjo SAKATA 1

Investigation on Factors Detecting Unintentional Backbiting in Junior High School Students

..... Harune KANAI, Kenichiro ISHIZU 13

The impact of teacher language praise on children’s emotional responses

— From the scene where a friend is praised by homeroom teacher —

..... Momoka YAMADA, Kenichiro ISHIZU 21

Practical Research for Reducing Children’s Anxiety in Elementary School Foreign Language Activities

..... Natsue CHIBA, Hiroyuki OKAZAKI 33

Current Status and Issues of Junior High School Class Management and Student Guidance

..... Takaya DAIDO, Haruo HASEGAWA 41

Case Study on Making Yoga Teaching Materials in High School Physical Education

— Focusing on the Practice of Presenting Creative Works in a Group —

..... Kazunori TAMAKOSHI, Naoko YAMAMOTO 51

Report

Science Classes that Induce Deep Understanding through Introducing Teaching Materials and Discussions

— Proposal of “Multiple-Step Learning Method” —

..... Hideya GESSO, Hiroki SHINMURA, Nobu KUZUU 69